

令和8年3月27日

松江市議会議長 野々内 誠 様

教育民生委員会
委員長 太田 哲

行政視察報告書

下記のとおり行政視察を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 令和7年10月15日（水）～10月17日（金）
2. 視 察 地 香川県高松市 （香川県高松市番町一丁目8番15号）
高知県香美市 （高知県香美市香北町美良布1224番地2）
高知県高知市 （高知県高知市棧橋通2丁目1番50）
3. 視察委員氏名

<u>太 田 哲</u>	<u>小 澤 一 竜</u>
<u>舟 木 一 真</u>	<u>長谷川 浩 司</u>
<u>佐 野 みどり</u>	<u>細 木 明 美</u>
<u>石 倉 徳 章</u>	<u>津 森 良 治</u>
4. 随行者氏名 長 島 幸 子
5. 調査の概要 高松市：引きこもり支援、児童クラブの取組や体制等について
香美市：ふるさと学習について
高知市：オーテピア高知図書館現地視察、不登校支援について

※詳細は別添のとおり

香川県 高松市

1 調査項目

引きこもり支援、児童クラブの取組や体制等について

2 視察対応者

高松市健康福祉局保健所 健康づくり推進課 課長 谷本 新吾

高松市健康福祉局保健所 こども未来部 子育て支援課 課長補佐 野生須 寛之

KHJ 香川県オリーブの会 代表 松本 一幸

3 調査期日

令和7年10月15日(水) 午後1時30分～午後3時30分

4 高松市の概要

人 口 : 419,739 人 世帯数 : 203,602 世帯 面 積 : 375.54k m²

小学校 : 53 校 中学校 : 29 校 高等学校 : 14 校

5 調査目的

引きこもり支援、児童クラブの取組や体制等について、調査研究するもの。

6 説明概要

(1) 引きこもり支援について

事業の目的

- ・引きこもり当事者、その親及び家庭に対して、こどもの自立、親同士の連携協力の向上に関わる事業を行うと共に、引きこもりの問題に対する社会的理論を深め、行政に対して支援を求めつつ活動を通して社会全体の福祉の増進に寄与する。

主な活動内容

- ・例会と機関誌発行：例会は月1回開催し（高松市内）、医師、臨床心理士はじめ専門家や体験者による講演、親の学習会、当事者の経験発表や近況報告、グループ別話し合い、情報交換など。機関誌は隔月に発行し会員はじめ関係機関に送付。
- ・居場所運営：当事者が社会への第一歩を踏み出す前段で聴き・語り、仲間作りができる場、傾聴やピアスタッフの養成と学習体験の場づくり、在宅ワーク体験等。

これまでの実施事業等

- ・2021（平成24）年度 高松市共同企画提案事業に当会提案の「地域でひきこもりを考える」が採用され高松市保健センターと協同で事業実施
- ・2014（平成26）年度 香川県より「ひきこもりサポーター養成研修（7回）」に続き、

- 翌年以降 2018 年度まで連続し「同フォローアップ研修（各 3 回）」を受託実施
- ・ 2015 年 10 月 31 日から 2 日間、四国で最初の「第 10 回 KHJ 全国大会 in 香川」を高松市で開催し全国から 334 名が出席
 - ・ 2019 年 6 月 「家族会」と「女子会」の開催拠点増加（現在：高松市・三豊市の 2 ヶ所）
 - ・ 2025 年 9 月 「ひきこもり支援基本法」の制定を国に求める県内各議会の「意見書」採択要望を推進中であり県議会と県内 8 市全ての議会選択が得られた等。



【高松市での行政視察の様子】

事前質問と回答

（質問）・高松市のひきこもり（15～64 歳）の把握されている人数はどのくらいなのか

（回答）民生委員が調査した、6 ヶ月引きこもっていた人数は、香川圏域 726 人の内、高松地域 237 人（H30）

（質問）またどのように把握されているのか

（回答）民生委員が平成 31 年 1 月 1 日から 2 月 28 日の 2 ヶ月間かけてアンケートで調査した。

（質問）支援体制、県および社協との連携はどのようにされているのか

（回答）県は、ひきこもり地域支援センター「アンダンテ」というひきこもり支援機関があり、相談等はそこの専門相談員が対応する等、連携している。

社協は、まるごと支援相談員が本庁の中に矯正社会推進課があり、そこで重層的支援でとりまとめている。参加支援が「ひととこ」さんに委託、アウトリーチなどは「はまるごと」さんへ委託している。

(質問) 具体的な事例があれば教えてください。

(回答) なかなか長いスパンの事例が多いとは思いますが、例でいうと、20 年以上引きこもっていた女性と関わっており、当事者の声を聴こうということになり、ひとところへ行ってもらった。タイミングにもよるが、その女性はそれ以来、自分で自転車に乗って社会へでることが出来たという事例があり、感動した。

(2) 児童クラブの取組や体制等について

事業の目的

授業終了後に小学校の空き教室などを利用して、適切な遊び及び生活の場を提供し、児童の健全な育成を図ることを目的とした事業である。保護者の就労等により昼間家庭にいない小学生が対象で、遊びや生活の場を提供し、健全な育成を図る。

対象児童

令和 8 年 3 月 31 日までの期間にクラブ利用を開始することを希望し、以下のすべてに該当する児童

- ・各校区の小学校に在籍する児童
- ・保護者及び同一住所に住む祖父母等が就労等のため、常態として家庭にいない児童又はこれに準ずる児童
- ・原則、週 3 日以上の利用が見込まれる児童

※就労の場合は、原則、勤務終了時間が概ね午後 2 時以降かつ勤務日数が週 3 日（月 12 日）以上であることを要件とし、育児休業中等で保護者が自宅にいる場合はクラブを利用することができない。

※また、同一校区内に児童を保護監督できる祖父母が居住している場合や留守家庭児童を理由に越境入・通学（学校指定変更）をしている場合は、放課後児童クラブへの入会ができないことがある。

夏休み期間の利用

《休会制度》

夏季休業日にクラブを利用する必要がない方は、放課後児童クラブに登録したままで、夏休み期間中のみクラブを休会することができる。

休会する場合、7 月の利用料は、3,000 円（月曜日から金曜日までの利用）又は 4,500 円（月曜日から土曜日までの利用）となり、8 月分の利用料はかからない。

《期間限定利用》

休会制度利用児童数に応じて、夏休み期間限定の利用者を受け入れている。

この場合月額利用料は、7 月分が半額、8 月分が 9,000 円（月曜日から金曜日までの利用）又は、11,000 円（月曜日から土曜日までの利用）となる。

事前質問と回答

（質問）放課後児童クラブの現状と課題について。

（回答）本市においては、今年の5月1日現在で140人の待機児童が発生している。令和7年度140人発生している。

（質問）民営の放課後児童クラブが増えてきているが今後は民営化に移行するのか。

（回答）民間事業者による安定的な人材の確保等を目的にして、令和6年度から運営の一部について、民間委託を実施しており、人材確保の状況は少しずつ改善している。

（質問）市と放課後児童クラブとの連携及び学校などの連携はどのようにされているのか。

（回答）人材が地域で確保できないという状況の中で、地域にクラブを任せる等というのは難しい状況。クラブのこどもが、教室の活動に参加するといったところは高松市としても進めていこうと考えている。

（質問）待機児童はおられるのか、待機児童はどのように対応をされているのか。

（回答）待機児童の対応について、令和7年度からの5カ年で、公立と民間、合わせて20教室を5年間確保して、令和10年度末までに待機児童を解消するという目標を掲げているところである。



【高松市役所 本会議場】

高知県 香美市

1 調査項目

ふるさと学習について

2 視察対応者

高知県香美市議会 議長 小松 紀夫
香美市役所

3 調査期日

令和7年10月16日(木) 午後1時30分～午後3時00分

4 横須賀市の概要

人口：25,000人 世帯数：13,081世帯 面積：537.86k㎡
小学校：8校 中学校：4校 高等学校：1校

5 調査目的

連続テレビ小説「ばけばけ」が9月から公開する。

これは、本市で暮らした小泉八雲の妻をモデルとしたドラマです。「あんぱん」から「ばけばけ」と朝ドラ繋がりで選定させていただきました。現在公開中の「あんぱん」について、こどもたち（地域）の反響等聞きたい。

地域が盛り上がることで、こどもたちがふるさとに誇りを持ち、たくましく育ってくれることを期待。

6 説明概要

運営体制

運営は指定管理により、公益財団法人やなせたかし記念アンパンマンミュージアム振興財団へ委託して運営

記念館を活用したこどもの教育等

【美術館施設としての鑑賞養育】

- ・香美市在住又は在学の3歳から中学生以下のこどもへの年6回無料フリーパス配布
- ・香美市内の教育機関の社会見学について、入館料を免除
- ・香美市以外の教育機関について、20名未満の来館に際して、団体料金に減額

【探究学習】

- ・令和6年度は、教育委員会より各小中学校へ、探究のテーマとして「やなせたかし氏」を取り入れるよう要請。道徳や総合の時間等において、やなせ先生の人生や先生にとっての「平和」「正義」「勇気」について探究する時間をとった。

【指定管理者の自主事業】

・未来の巨匠展

香美市内の小学校、保育園、幼稚園に通う3才から小学校低学年を対象とした地元のこどもたちの作品展を展開。



【香美市立保健福祉センター香北での視察の様子】

事前質問と回答

（質問）市が運営をされておりどのような体制で行われているのか。

（回答）公益財団法人やなせたかし記念アンパンマンミュージアム振興財団が指定管理を受けて運営している。

（質問）記念館を活用したこども教育等について

（回答）観光施設ではあるが、こども達が「初めて触れる美術館」というところが、やなせ先生の目指す施設となっている。鑑賞教育として活用している。



【香美市立やなせたかし記念館での視察の様子】

高知県 高知市

1 調査項目

オーテピア高知図書館現地視察
不登校支援について

2 視察対応者

オーテピア高知図書館 館長 小新貴士
オーテピア高知図書館 司書 南 昇平 他
高知市教育長 長野 隆史
高知市教育研究所 所長 越智 知恵
高知市教育研究所 副所長 大坪顕彦

3 調査期日

令和7年10月16日(木)

オーテピア高知図書館 午前9時30分～午前11時00分

令和7年10月17日(金)

高知市教育研究所 午前9時20分～午前11時40分

4 高知市の概要

人口：316,410人 世帯数：164,373世帯 面積：309.00k m²
小学校：43校 中学校：27校 高等学校：16校

5 調査目的

1. 不登校支援について、教育支援センター「みらい」やフリースクール等の実態や取組について調査研究するもの。
2. オーテピア高知図書館について（県立図書館と、市立図書館の複合となった経緯等）

6 説明概要

（1）オーテピア高知図書館（現地視察）

- 老朽化・狭隘化した高知県立図書館・高知市立図書館（本館）を合築により整備
- ・H22.8 高知県知事と高知市長が基本構想の着手に合意
 - ・H22.10 新図書館基本構想検討委員会発足
 - ・H22.4 「新図書館基本構想」策定
 - ・H23.7 「新図書館等複合施設整備基本計画」策定

○建設

- ・ H24. 3 「新図書館等複合施設基本設計」完了
- ・ H26. 7 着工
- ・ H29. 12 竣工
- ・ H30. 7 開館

○基本コンセプト

- ・ 4 階を効率的に配置した複合施設とし、それぞれの機能を十分に発揮しながら相互に連携を図ることで様々な人々の交流を深め、高知県内の生涯学習や文化の発展に寄与する。ほか

○来館者数の年間目標 100 万人

- ・ 開館約 5 年 8 ヶ月で 500 万人達成
- ・ 開館約 6 年 9 ヶ月で 600 万人達成

○効果・課題

①効果

- ・ 単独では実現が難しい、質・量ともに蔵書とサービスの提供
- ・ 機能・機材等の相互補完による事業の充実と多様な利用者へのサービスの向上
- ・ 集客施設として中心市街地の活性化の寄与
- ・ 合築議論による図書館への関心の高まり

②課題

- ・ 資料・情報の充実
- ・ 司書の専門性の向上
- ・ 理念・目的・目標の共通認識を持つ
- ・ 相手を知り、お互いを理解する 他



【オーテピア高知図書館での視察の様子】



【オーテピア高知図書館での視察の様子】

【事前質問と回答】

（質問）県と市が共同運営をされているが背景を伺う。

（回答）県市の異なる機能を相互に補完して共通する部分を共同で行い、直営をもって効率的・効果的に運営する。

- ・ 共通業務を行うため、正職員は県市それぞれの併任（管理職除く）
- ・ 共通業務のうち、返本や書庫出納などバックヤード業務は委託
- ・ 県市の費用負担割合（県：市）
施設管理に関すること（10：7）
事業運営に関すること（1：1）

（質問）町の本屋さんが減少する中で活字文化を継承して行く為、図書館と本屋さんとの連携はしているか。

（回答）本屋が参考にオーテピアで本を見て、必要であれば購入することがある。オーテピア高知図書館の近くの本屋と連携し、スタンプラリー実施。また、夏休みを利用して、市内の大きな4つの書店と連携し、スタンプラリーを実施。各出版社が景品を出し、参加した子ども達へ渡すという企画をしている。

（2）不登校支援について

高知市教育センター未来とは

- ・ 教育の質を向上させるための様々な取り組みを行っている。具体的には、教職員の研修や教育政策の策定、学校給食の管理指導、青少年の健全育成、就学援助制度の運営など、教育に関する専門的または技術的事項の調査研究や指導を行っている。

高知研究所とは

- ・ 不登校に関する教育相談、不登校状態の子どもへの支援など

教育支援センターとは

・不登校児童生徒の集団生活への適応、情緒不安定、基礎学力の補充、基本的生活習慣の改善等のための相談・指導を行うことにより、その社会的自立に資することを基本とする。

「みらい」のめざしているもの

・学校に行けない、学校での生活に苦戦しているこどもの成長の場を保障し、こどもが心身共に元気になり、楽しく意欲をもって過ごし、進路に向けて自己実現していけるようになること。



【教育研究所での視察の様子】

【事前質問と回答】

（質問）不登校の児童、生徒の現状と課題を伺う。

（回答）本市不登校出現率の傾向は、小中学校とも全国と同様、増加傾向にあり、特に中学校においては、全国値と大きな開きがあり、重要な教育課題となっている。

（質問）教育支援センター『みらい』について不登校に対して

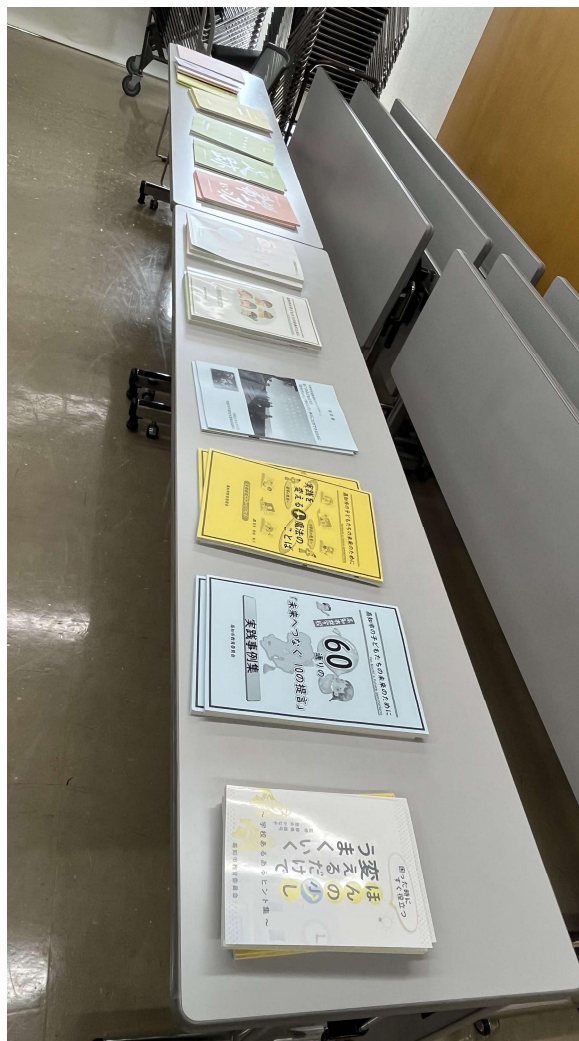
（回答）・教職員がこどもと向き合うことができる時間を確保する。

- ・こどもの多様な背景に柔軟に対応できる教育環境を調整する。
- ・多職種や多機関連携による維持可能な校内支援体制を強化する。
- ・市民の不登校に対する理解を進めるための情報発信に取り組む。
- ・不登校の保護者を支援するリソース（資源）を充実する。

（質問）今後も一定程度増えると思われる不登校の支援のあり方について伺う。

（回答）高知市では、不登校とは「学校に行くか行かないか」の問題ではなく、「どう生きるか」という問題であると捉え、そのこどもの成長のために、学校や教育委員会だ

けでなく、医療や福祉、企業としっかり手を携え、将来の高知市を担うこどもたちのために重層的に支援していく必要があると考えている。



【「教育支援センターみらい」の施設見学の様子】